

調査・研修等計画届出書

令和 元年 10月16日

瀬戸市議会議長 様

議員名 柴田 利勝



政務活動 として、下記のとおり調査・研修等を実施いたします。

記

期 日	令和 元年10月29日から 月 日まで (泊1日) (10/30-31も高知県下(理髪所))	
調査先・研修名	次世代施設園芸団地	
会場名(会場所在地)	高知県高岡郡四万十町本堂 707-58 四万十とまと (株)	
調査・研修の目的 (今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて)	園芸王国高知に2016年、県内最大面積を誇る4.3haの四万十町次世代団地(次世代施設園芸高知拠点)が誕生した。 従来型の約3倍となる軒高6mのハウスには、最新の統合環境制御装置が整備され、温度、湿度・二酸化炭素濃度といったハウス内環境が、コンピューターによって制御されている。 県内の3事業者が、約85人を新規採用し、平成28年7月からトマトの栽培をスタートさせ、オランダの最先端の環境制御技術と地元の木質バイオマスエネルギーを活用して、従来の約2倍となる10a当たり38.4tの収量を目指している。	
議長名の依頼	要・ <input checked="" type="checkbox"/> 不要	依頼先(名称)
同行者名	山田治義・冨田宗一・小沢勝・西本潤・長江公夫・三木雪実 戸田由久・宮菌伸仁・柴田利勝・高島淳・朝井賢次	

※行程表を添付してください。

行 程 表 (1)

愛知県知事登録旅行業第2-121号
 ㈱ 三重交通 第一旅行会
 Tel(0561)82-3914 Fax82-5606

(自民新政クラブ様 高知3日間)

日	年/月/日	行 程	宿泊先・食事手配等
1	令和元年 10月29日 (火)	名古屋小牧空港⇄FDA341便⇄高知空港⇄空港連絡バス⇄高知駅前バス停⇄徒歩⇄高知駅 7:05発 8:10着/8:55発 9:20頃着 ++++++特急あしずり1号+++++窪川駅⇄タカシーで約15分⇄四万十町次世代団地(ご視察)⇄タカシーで 9:53発 ※自由席利用となります。10:55着 11:15～12:00 約15分⇄窪川駅周辺(ご昼食)⇄窪川駅+++++特急あしずり8号+++++高知駅⇄徒歩⇄高知市内(泊) 12:15～13:15 14:02発 15:04着 ※ご夕食は18:00～市内料亭「得月楼」にて	昼: 事前手配なし 夕: 月替わり土佐会席 [宿泊先] 高知ペンションアックホテル (088)884-0777
2	10月30日 (水)	高知市内 ※ご夕食は18:00～市内料亭「得月楼」にて	朝: ホテルにて 昼: 事前手配なし 夕: 血鉢料理 [宿泊先] 高知ペンションアックホテル (088)884-0777
3	10月31日 (木)	高知市内⇄徒歩⇄高知駅前バス停⇄空港連絡バス⇄高知空港⇄FDA346便⇄名古屋小牧 11:45発 12:10頃着/13:00発 14:00着 (または11:15発 11:40頃着) 空港	朝: ホテルにて 昼: 事前手配なし

*上記行程・予定時間は、10月4日現在の交通機関運行予定スケジュールを元に作成しております。交通機関および現地道路事情等により予告無く変更となる場合がございます。予めご了承ください。

調査・研修等報告書

令和 2 年 2 月 10 日

瀬戸市議会議長 様

議員名 柴田利勝



政務活動として、下記のとおり調査・研修等を実施したので報告します。

記

期 日	令和 1 年 10 月 29 日から 10 月 31 日まで (2 泊 3 日)
調査先・研修名	四万十町次世代施設、全国市議会議長会研究フォーラム
会場名 (会場所在地)	四万十町、高知市
調査・研修の目的 (今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて)	1、国、県、町による事業資金によって、オランダ型識別システムなどを導入して、トマト栽培を行い年間 10 ヶ月近い期間一定の品質で有力企業に出荷している。農業のライン化であり、今後の農業のあり方として捉えることができた。 2、議会のあり方、議員として市民との距離をちじめることへの取組み方、事例の発表など、幾多の成果を残している議会もあり、大いに参考になった。
調査先の事業の現状・課題 / 研修で学んだこと・キーワード等	

10月29日―31 四万十町、高知市

市万十町次世代団地

日本ベストグロウ㈱、四万十あおぞらファーム㈱、四万十とまと㈱の3社が入っている。日本ベストグロウが中心的に活動している。

対応者 日本ベストグロウの南氏

平成26年立ち上がり、3社で分担して運営、投資額は国、県から約30億円である。苗は四万十とまと(株)が受け持ち、7月に苗をオランダから購入した設備に植え付ける、設備は全てセットされた仕組みによって稼働する、これによって10月から収穫され、幹は約6メートル伸び、夏場は葉を多くし、冬場は葉を少なくして太陽光も人的にコントロールしながら毎日収穫し、翌年7月まで10a当たり約37トン生産するとのことである。これにより地元の雇用にも貢献しているとのことである。

収支についてはコメントされなかったが、納入先はカゴメやスーパーなどであり、安定的に供給ができ、経営的にも一定の成果があるものと感じた。ただこのようなことが本市でどのようにしたら出来るかを考えると大変難しいものと思う。